

【日 時】平成18年9月15日(金) 19:00~20:40

【場 所】下山支所2階会議室

【出席者】委員14名(欠席2名)

清水市議

事務局 (支所長 副支所長 加藤 酒井 川合)

【次 第】1 開会

2 会長あいさつ

3 会議録署名委員指名

4 前回会議録の承認

5 議題

(1) 下山地区工業開発計画について

(2) 廃校4校の利活用について

6 閉会

【内 容】

1 会長あいさつ

2 会議録署名委員氏名

鶴田委員を指名

3 前回会議録の承認

8月23日に14名の委員さんに出席いただき、第7回の下山地域会議を開催しました。内容は、今までのコミュニティ会議準備会の経過報告をいただき、それに続きまして、ビジョン達成に向けた計画の概要の見直しと、計画実施に向けた体制づくりについてワークショップを行いました。

(全委員承認)

4 議題

(1) 下山地区工業開発計画について

(市議)新聞紙等で報道されました、トヨタ自動車のテストコースや研究開発施設について、地域会議の皆さん方にも承知いただきたいということで、経過を報告させていただきます。

トヨタ自動車のテストコースについては、20年程前同様な計画がありましたが、結果として断念することになりました。そして、今回、県議から今トヨタ自動車テストコースの用地を探しているという連絡をいただき、前回計画のあった地域はどのようになっているかとお話をいただきました。別段、特別な開発もされず、現在に至っていると報告しました。県議から一度時代も変わっているから、地元で相談してみてもどうかと言われ、該当地域の人に意見をお伺いいたしました。当時から、時代も変わっており地区の皆さんの考え方も変わっているのではないかとということで、役員の皆さんに相談してみてもどうかということになりました。それで、今年の1月になり、花山地区と三巴地区の区長さんに相談させていただき、該当の4地区の役員さんに集まっていた

き協議いただきました。そして、私が各地区を回り説明をさせていただき、とりあえず検討委員会を立ち上げて検討してみることにしました。以来、委員の皆さんに検討委員会を精力的に開いていただき、役員さんたちが中心になり、地区の意見を集約していただきました。この地域で検討している段階に、トヨタ自動車がよくその地域で計画を決定してしまっただけではいけないということで、中間報告として、トヨタ自動車と豊田市長に報告しようということになり、市長に報告をさせていただきました。全員の方が、理解をいただける状態ではありませんでしたので、慎重論の方を訪問し、最終的に盆過ぎにご理解をいただくことができました。ご理解といいましても、苦渋の選択の中でのご理解ということでありました。その後、8月末に、検討委員会を開き、この問題を受け入れていくかどうかを委員長さんに諮っていただきました。そして、受け入れていくことになり、9月8日に、トヨタ自動車と豊田市長に、検討委員会の結果を報告しました。トヨタ自動車は、一度検討させていただくということでありましたが、昨日、トヨタ自動車から、豊田市長と岡崎市長に計画を進めていくということで協力要請がありました。そして、今日、トヨタ自動車が、愛知県知事に協力要請をなされました。今までの経過につきましては、このようなこととなります。

この話は、この地域にとって非常に重要な話であり、豊田市・岡崎市の両市にとりましても是非成功させたい事業であります。

今後、この地域といたしまして、何らかの組織をつくりまして、市に対し、あるいはトヨタ自動車・県に対して、地域づくり・まちづくりについて提言やお願いしていくことが必要ではないかと思っております。地域会議の皆さんは、現在地域課題について、検討をしていただいているかと思っておりますが、一層元気な地域にしていきたいと思っておりますので今後ともよろしく申し上げます。

(2) 廃校4校の利活用について

(事務局)現在の4地区の廃校につきましては、一部を除きましては危険校舎であり、通常であれば、取り壊すというのが基本的な考え方となります。建て替えには莫大な費用がかかり、それだけの価値が必要であります。基本は合併の基本方針であります、都市と農山村の交流でありますので、このことを念頭において今まで検討をしてきました。廃校の4校のコンセプトは「里山ノスタルジックツーリズム」として、郷愁を誘い、安らぎを与えられるような廃校の利活用を進めていこうということとなります。地域の皆さんにお願いし、アイデアを募ったわけではありますが、なかなかアイデアが出ませんので、こちらでアドバイザーを含めまして活用案を提案してきました。そこで、各小学校の活用案を作成し、第4回目の検討委員会を行い、各委員さんから意見を伺いました。各委員の意見をまとめますと、事業の運営主体は誰がやるのか。事業の採算性は見込めるのか。あと、行政がどこまで関わってくれるのかといったことが主な論点になりました。今後、第5回目の検討委員会を予定していますが、経営主体をどこにするのかといったことを整理して方向付けをしていきたいと思っております。そして、予算編成の時期になってきますので、来年度予算を要望していきたいと思っております。今までの状況報告は以上であります。皆さんの中にご意見があれば賜りたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(委員)第三セクターが中心になって、4校の廃校を活用していくことについてどう思われますか。

(市議)役員会で了解され、採算ベースにのればやっていってもいいと思っております。そして地域の人も雇用できると思っております。でも一気に4校一緒に行くということは無理だと思っております。

(委員)赤字になることがわかっているような事業は、地元は行いません。

(委員)私たちの地区も、この案を地元を持ち帰り、話し合うときにぶち当たる壁がそこあります。

(市議) 学校の施設をそのまま残すとなると、施設が大きいので、施設を維持管理していただくだけでも大変です。

(委員) 廃校の利活用については、誰かが行えばその人には付いていきますが、なかなか自分が主体になってやってくれる人はいません。

(事務局) 今回の合併の目的であります都市と農山村の交流というテーマを実現するための舞台として市がつくろうということが趣旨であります。要するに、地元の人たちが中心になって交流の場作りをするということで、市が多少のお金を掛けても校舎を耐震補強し、使えるようにしていこうということであります。今、皆さんが言われる中心になる方がいないだとか、採算性がネックになっているとか、それが解決できないと前に進めないという状況にあります。

最初から100%でスタートする必要はありません。全体の構想を持ちながら、目標に向かって、毎年少しずつ進んでいくことでいいと思います。

(委員) 私たちのなかには、何かをやりたいという気持ちはあります。

(事務局) 4校同時スタートできなくてもしょうがないかなという気持ちはあります。地元の熟度もありますので、全体構想を持っていて、今年はこの学校、来年はこの学校ということで、段階的に整備していくことも考えざるを得ないと思っています。

(委員) 山遊里にしろ、香恋の館にしろ、いわゆる一般の人ではできないことを行政でやっていただいています。一般の人が行うには、儲けだけをみて事業をおこないますが、行政が携わっていることで、観光をPRすることを行っていただいています。廃校の利活用につきましてもその部分が出てこないと無理であると思います。

今日は、2点について協議をいただきました。この地区が大きく変わろうとしている時期でありますので、このような時だからこそ地域会議の存在価値を大きくしたいと思います。引き続きご協力をよろしく申し上げます。今日はありがとうございました。